

新編水滸畫傳

二編

七

875  
17



青面獸揚志

澤柳

明選 875 17

新編水滸画傳卷之拾七

東武 高井蘭山翁

譯編

明治三十二年十月

○美髯公智とりて挿翅虎と穩

宋押司晁蓋と逃し、高不策て私宅不取り、自ら槽に繫ぎ、

茶坊にあり、処に何清の茶坊の門前に立出、一向頭と伸して宋江と待居る、

宋江起て、何清の何公候待久し、在つらん、宋江あり、あるへき、不村中

より、一人の親類来て、家来と待居し、彭延引せり、何清急事、ある依

て、おし侍候ぬ、彭の押司、くまど知縣へ、守る、宋江が、待候ひ、理え

と、別日、伴して知縣の衙門、小入り、ふ、計時、知縣、村文彬、已小願、上、おて、

弘と、公事と、辨ト、居り、宋江、別濟州の文書と、携へ、遂、不、何清と、

新編水滸画傳卷之拾七

牌を掲げれば法の人とれりて及く案卷と退りたり。時宋江知縣小對  
 中府に濟州府より緘書の事あり。緘捕使何清小文書を附して  
 尚地小岩越され。乃城の落居。尚縣小実り。官く文書を披讀し  
 之とて。遂小彼文書と見。知縣時文彬と見。披見して忽ち大驚  
 以て。宋江小對して云々。此は是蔡を伴より。使者とをされ。地小城を  
 捕へお渡さる。とて。官く急人と馳て。七人の城と捕よべ。宋江が云。  
 是日中。小人と馳て強劫する。とわらふ。必也消息を漏して。城まこまると  
 也。あ。ん。唯好夜中に馳て。彼城を晁蓋どもも。擧げ。其の六人の自ら  
 所。知れぬ。ん。知縣が云。宋江の晁蓋。原。名。譽。の。豪傑。なるに。い。ん。ど。か。の  
 王。事。と。做。出。せ。や。我。今。こ。れ。と。伝。じ。し。と。い。ども。先。文。書。の。表。に  
 隨て。是。と。捕。よ。べ。と。初。一。人。の。縣。尉。を。び。ふ。あ。人。の。於。此。と。懸。卷。に。喚。び。晁

蓋と擧て。あ。ん。と。命。じ。び。於。此。一。人。の。姓。は。朱。名。全。又。一。人。姓。は。雷。  
 名。は。撲。び。二。人。武。藝。流。小。揚。れ。等。宋。の。事。に。あ。る。時。朱。全。雷。撲。已。小。命  
 と。奉。縣。尉。と。共。に。役。而。に。來。り。初。上。の。路。自。身。に。歩。行。の。兵。総。て。百。餘。人。と  
 僅。し。緝。捕。使。何。清。及。び。あ。人。の。虞。候。と。作。眼。と。て。急。あ。人。の。於。此。を。小  
 赤。衣。及。び。提。遂。に。大。勢。と。引。率。して。あ。ら。に。城。の。東。門。と。あ。お。飛。び。こ。り。東  
 溪。村。の。晁。蓋。家。と。ぞ。馳。來。已。小。村。に。あ。り。し。時。一。更。の。九。刻。あり。法  
 の。軍。一。ツ。の。親。軍。の。内。小。屯。し。城。と。捉。ま。さ。し。商。議。する。時。朱。全。が。云  
 前。面。に。乃。こ。れ。晁。蓋。が。敵。あり。渠。が。宅。に。居。る。後。二。筋。の。務。あり。あ。大。勢。前。より  
 推。蒐。び。彼。必。也。後。門。より。逃。れ。出。べ。し。一。夜。に。後。門。小。押。詰。り。前。門。より。逃。る。べ。し。  
 我。知。る。晁。蓋。は。万。丈。不。敵。の。勇。あり。あ。ら。も。六。人。の。後。城。あり。こ。れ。を。助。く。六  
 人。の。實。も。武。藝。力。を。人。小。超。て。一。誘。同。干。の。割。の。者。なる。べ。し。且。彼。們。の。皆

死命の者なれば何の恐れもなき。一齊に軒て出でし討さる。晁蓋が肉を原  
來家人より。彼等各力を發して働べ。我軍いふんぞよく。是に歌するごと  
ゆ。や。只々東小聲て。西と撃計をさす。或は彼軍が迷ひ乱んと侍て。  
法へ一齊によと下さ。結強ちならん。あつと我と雷豹は。人数と二  
子小分。支路より進み。晁の先兵を引て。彼が後門の辺に埋伏して。おまら  
乃ち唸哨の聲をひきおき。雷豹は又大旗を率して。前より  
あて入。即ち一人お遇へ。二人と捉へ。二人と見れば。二人と擒りまへ。これ別万全の  
籌さ。しん雷横られを夢て。大お強りとほし。朱豹の計畧理より。強れを  
朱豹の宜く。縣尉相公とらに。前よりお入。更強く。晁の後門よりお入  
らん。朱全が云。雷豹の計畧。知りおまら。晁蓋が家より。後門の傍に又一筋  
の小徑あり。これと知人少く。我は毎く彼が宅に往來し。乃ち晁の好眼の裏

に。見えり。我ハ別彼海小越き。あつと。是下より。彼が逃さる。取せ。知すしと  
え。万一強て。走し。お綱。法人不なるべし。縣尉を引て。云々。朱豹の  
言。扱めて。強り。既小かくの。とらん。人数と率して。馳向ふ。朱全  
が云。晁大勢を引。乃ち。晁蓋と二十人と率して。馳向ふ。一とて。騎  
るの士十人。歩行の士二十人。強て。三十人と率して。遂に。晁蓋を  
乃。縣尉。雷横と。晁に。大旗を率して。火把二十人。兵小持せ。晁を見蓋  
家の前門と。して。馳向ふ。已小。晁許さる。晁を見蓋が。敏と。率  
取に。晁蓋が。家の中堂に。猛火盛に。焚上り。晁烟地。小。後。紅。焰。晁。飛。已  
う。て。晁。撲。等。前門。小。乃。三。口。十。の。火。把。小。一。齊。火。と。點。は。面。八。方  
と。揮。照。し。法。人。喊。き。叫。び。門。内。小。乱。入。各。首。と。捲。て。は。中。堂  
の。火。の。光。及。び。炬。火。の。輝。あ。り。晁。心。と。照。し。乃。ち。晁。亮。々。なる。と。晁。白。日

知縣 勢を 向見 蓋と 捕し 宋江 時を 逆し 是を  
 おと 尻



新編 水滸傳 卷之二十七

のどに。張人此被と搜し、れども更に人歎るうりり、初る所に後門の辺に呼る  
 教大不驚く。元來朱全の晁蓋と後門より放ち逃さんと思ふふり、由名刺雷  
 換と嫌して、前門の向せぬ雷換もまゝ晁蓋と救んと欲するふり、由名。已に先  
 と事と後門の向せぬを至し、うも朱全不悦、休らまじと泣すし、遂に前門の  
 向ひり。朱全後門の向し、一時晁蓋いまゝ教内と完ざりて在る。家  
 人馳來りて告る、友軍大勢已に後門を推來ぬ。驚く、急にお出せ、晁蓋  
 と言て忙し、衆人命令ト。中堂の火を放し、火刺人數十人、大不  
 從へ公孫揚と共、不滅き叫んで、後門を閉て出、晁蓋自ら大勢を揚呼て云  
 乃ハ我、不尚らん、去死せん、我、不避ん、若しせん、必ぞ近く逃で、傷と被ること  
 んと、勇を奮ひ、刀と楯と、門外に馳出、此時朱全、呼で告る、晁蓋保正  
 走ると告る、朱全、老早に、汝不、汝と、保と、晁蓋と、れと、耳も、め、入、

公孫揚と共に。一命と弃て、斬て出、朱全、故を、情に、避廻て、一つの、跡と  
 并さ、刈晁蓋と、傷て、奔ら、晁蓋、公孫揚に、對て、云ら、先、生、の、家、人、と  
 引て、先、不、往、有、我、の、跡、より、殿、後、して、あ、ん、と、遂、不、子、を、た、して、乃、乃、  
 所に、朱全、の、歩、行、の、兵、と、後、門、より、教、内、に、を、ま、め、只、願、呼、り、云、せ、ら、ん、城、前、門、の  
 出、る、所、の、前、門、の、ま、ま、見、と、捨、れ、雷、換、と、れ、を、受、て、匆、匆、身、を、回、し、門、外、に  
 馳、出、兵、と、分、つ、て、乃、と、追、し、め、已、ハ、火、光、の、内、に、在、て、東、と、親、西、と、尋、ん、で、一、向  
 晁蓋と、乃、ぬ、朱全、の、兵、と、撤、て、一、騎、馳、に、晁蓋、の、後、に、隨、て、追、來、る、晁蓋、後、と  
 顧、て、云、ら、ん、朱全、の、跡、の、何、の、意、緊、し、趕、り、け、り、や、我、と、朱全、の、跡、と、ハ、え、來、仇、と  
 かく、然、も、る、さ、ぞ、し、朱全、後、と、思、ひ、ふ、一、人、の、兵、も、見、え、ざ、り、し、ふ、乃、晁蓋、不、驚  
 て、云、ら、ん、保、正、ハ、尚、我、一、片、の、情、と、知、り、多、る、に、や、我、雷、換、が、心、迷、て、保、正、と、放、つ、  
 ま、ど、さ、と、恐、れ、乃、我、雷、換、と、嫌、し、て、前、門、の、向、ひ、り、我、の、後、門、の、向、し、保、正

と放つ我今可の務を寔に保正と申しりらる。京來心あるは保正今  
 作而に住とて休て。只官一梁山泊小地入身命と安し。晁蓋是  
 とめて大お感謝し云る。足下活命の恩。吳日らんと報ずべし。朱全又  
 破復さんとまる。而に昔より雷撲大に呼て云る。朱全破城と走しりらる。  
 朱全忙しき着て云。三人の城東の小地と申んで逃るに雷が破る。是  
 と追蒐より雷撲られとめて再び去と引て東の路に馳向ふ。朱全晁蓋は  
 に從て馳るが。漸火把の光も遠く隔て。晁蓋が形も見えざり。今は已に  
 る安しと思ひ。詐て跌き倒れしを解ふておして。後の傍に倒れしうば。  
 法の兵ども。これを見て。突に投起して。こいつは傷と袖りおすと官ふ。  
 朱全着て云。火把小離れ。晁蓋も石も跌き倒れしうば。十分大ひる。  
 傷にわづは。時縣尉と飛せ。跑来り。乃朱全に問て云。城已小逃出るふ。

いんど是と軒と軒と。朱全と云。朱全追らる。路もふしと奈何も  
 きる。况や這些の兵ども。早く恐れ慄て。向ひをまざる。急一人の城と  
 も。投へ。晁蓋と縣尉。これとめて。大ひに後悔し。再び兵とをめて。追掛しむ。  
 法の兵ども。心中に想ひらる。友人の助。晁蓋も。城小近づくとも。ぬと。我輩  
 めに。城と捕へんや。と。虚く。中里より。追往。遂に。立。飯て。縣尉。小。着て。云  
 なる。路も。暗く。し。城。何れの。務。と。知る。心。着て。一人の  
 城。も。遇。ひ。は。時。雷。撲。も。又。城。と。追。着。て。立。向。り。ら。る。が。私。小。中。小。老。道  
 朱全。晁。蓋。と。交。厚。し。多。く。朱全。晁。蓋。と。放。つ。ん。我。も。又。朱全。晁  
 蓋。と。救。んと。欲。し。ら。れ。が。今。破。小。逃。出。る。は。幸。ひ。之。法。れ。我。は。一。片。の。情  
 竟。に。見。れ。ざ。る。を。惜。う。つ。れ。と。判。法。人。小。對。して。云。る。は。彼。城。究。て。猛。勇  
 う。して。尚。能。奔。走。し。い。ん。ど。追。上。と。申。ん。や。是。小。放。て。縣。尉。も。術。計。を

友人の執事と他に再び晁蓋が家の門前を歩む時、まてに父の天氣なり。  
 何濤の侍従に在るが徳の人数、夜更しく強勃して一人の械と捕  
 ぬぎと見て大に若て云る、素特く尚地不即り。二人の械とも捉ず、いんを  
 再ひ濟州不即て。府尹に見えんやとも、再三後悔不及びり。縣尉ハ家づくの  
 隣家と捉へて、乘に鄆城縣と乘り馳回る。尚時知縣ハ夜書房の内小  
 坐し。只顧東漢村の消息と信る如に械とぐく逃去て、只家づくの  
 隣家と捕へると、皆て心中大不憂ひ乃隣家の志を詐塔の下小坐て  
 晁蓋が往向と問られ、徳の隣家若て、乘る皆晁蓋と曰村に任すと云。  
 遠く二三里と離れ、近き二三里と隔た小破家に往來する者ハ於て徐塔  
 と候ふ者有ん晁蓋が為人を以て、般の大罪と犯さんと云、爰も存考ひ、  
 徐塔が往向と求んと欲し、早き晁蓋が家人と捕へてこそ、汎々知

縣が云彼が家人ハ、そく従ひ行し、不即り、比や鄰家づ云家人の内、於小破人と  
 欲する者ハ皆めて、於此間小あり。知縣是と皆て、不逃捉捕の者と、遂乃鄰家ホ  
 と作眼く、て急にれと捉へしむ。乃て忽ち東漢村不即て、友人の奴僕と  
 捕來て、聽亦に、河漢も乃知縣是と、引居て晁蓋が往向及び六人の名、械が  
 姓名と問るに、初の問ハ、抵難し、痛く策れられ、不勝り。遂に白狀し、  
 向に六人の名、來て高儀し、れを乘り、これと械、徳ハ、只を内一人ハ、尚地不即て  
 讀書の先生と号し、吳學究と云者あり。京東面も械、徳ハ、今一人ハ、名ハ、公孫勝  
 一清先生と号し、又一人ハ、大漢子也、姓ハ、劉、名ハ、唐、也。以外三人の、名ハ、吳  
 學究、が、河漢、ひ、來、姓ハ、阮、と、中、人、也。石碣村、小、住、一、魚、と、釣、漁、夫、と、稱、  
 本同胞の兄弟三人と、是ハ、晁蓋、今、彼、等、が、教、に、居、向、と、云、り、や、い、ん、見、  
 乘、が、實、情、若、て、強、有、る、知、縣、是、と、皆、て、友人の奴僕と、何濤に、交割



正徳家  
徳川三郎  
治國臣  
布衣  
家臣  
師人  
長元  
無年

別一通の返文と修て。濟州の府尹小里氏。何清は返簡と主人の家僕と  
後法の軍卒と後に連夜に馳向。濟州府小里氏。府尹に見せ何清先  
府尹小里氏。晁蓋が逃去して及び主人の家僕が白状の次第一、洋に渡りて  
彼返文と里氏府尹見せ修て既小かくのてく人。再が白状と引出し。阮氏  
兄弟が來歴と同へ。遂に又白猪と策て。阮氏兄弟が事と同られ。携  
同に猪乃白状。彼阮氏兄弟が名兄と立地を歲阮小二と号し。次と  
短命二府阮小八。次と活圖阮小七と号し。三人於て石碣村小住し。  
時に府尹又同以外三人が姓名いん。白猪告て云一人ハ智多早兵用一人  
入雲龍公孫猪。又一人ハ赤髮鬼劉唐也。府尹見せ修て云ハ既小かくの  
て。落る分明なる上。再い捕ふとも易く。且白猪ハ孫緊く。牢中入處  
とて。府尹見せ何清と呼んで云ハ。汝ハ再び石碣村に馳向て。晁蓋ハ七人の

賊と。名に捉へる。と令らる。何清ハ直に後取に來り。徳の軍卒ホと。  
賊と捉ふ。計と商議。り。付。軍卒ホ。石碣村湖渺々として。然も  
梁山泊不通。於て是。茫々蕩々。兼葭の程の水泊なり。是。多。くの。人。馬  
戰舟と。は。誰。敢て。彼。取。に。馳。て。賊。と。捕。へ。ん。や。何。清。これ。と。呼  
て。を。理。り。たり。と。再び。府。尹。が。願。素。に。至。て。府。尹。小。告。て。云。彼。石。碣。村。の。本  
渺々。湖。渺。遠。に。梁。山。泊。小。お。通。し。週。廻。の。於。て。れ。葦。漫。々。と。生  
茂。り。あ。ふ。ども。回。賊。を。て。人。を。劫。せ。い。ん。や。日。者。ハ。許。多。の。強。盜。來  
て。梁。山。泊。の。内。に。水。陸。陣。と。列。ね。傍。壁。を。小。お。ち。る。是。大。勢。の。人。を。引。て  
馳。ぎ。ん。ば。い。ん。ぞ。賊。と。捕。へ。ん。や。府。尹。が。果。して。汝。が。云。ど。く。る。は。又。一  
人の。捕。盜。巡。檢。と。汝。に。お。添。乃。ち。八。百。の。人。を。と。し。ひ。け。汝。と。修。ふ。力。を  
併。し。り。賊。と。捕。へ。ん。何。清。命。と。啖。て。大。小。慌。び。又。取。取。不。來。り。是。に

精兵八百人ヲ撰出シ各器械ヲ準備シ翌日彼捕盜巡檢已濟州府の文書ヲ領シ何濤と名に及百人の馬と引テ遂に濟州城以テ出テ石碣村と申シて進發シ以テ合戰イケン。次と續テ明々人

○林冲水寨小大に火を併に

備も晁蓋ハ公孫勝と申シに數十の衆人と從へ已に石碣村も程近く成リしが二阮兄弟と申シ途申出テお違へ遂晁蓋と奪テ石碣村小泊リ七人の豪傑於テ阮小二が船に立テ梁山泊に入ベシ計後亦なる兵用ハ云今李豹乃江に彼早地忽津朱貴と云者酒店を築テ中々地方の豪傑と接也乃梁山泊入んと欲する者ハ先彼が店小泊テ來意と違テ我々今船を遣シ彼所に馳行。妾細朱貴と親テ山疎小入ベシ晁蓋是と申テ尚高機半舟不に。三は人の漁夫臚しく馳來テ告るハ若于の官

軍人馬高村と申シを考ふる晁蓋譚起テ云るハ彼又此に退かざるハ我々夾小一戰と僅し。潔く討死すべし。阮小二が云いんぞ討死するまでの工やわらん保正必也憂へる事と云る。余自り馳向テ彼等とさ中水中小引渡シ容也是と討死シ公孫勝が列位證さみおとされ且來が子候と一見シ之見蓋友人が勇と云テ。心中に恨び乃又劉唐に向テ云るハ汝ハ呉生と申シ彼小艇材を舟に裝先立テ李家乃に馳テお傍べし。我々ハ友軍ホが勢と試テ後より少頃あるべし。阮小二乃二艘の舟と浮ベ家材及眷屬を舟に載しわなれ長用劉唐ハ家材と押貸して七八人の家僕に舟と漕しわ。亦に李家乃に申シ馳行なり。晁蓋又阮小二阮小七もも付と掛けかくのてし。款と違ふべし。二艘の小船に乘しわて走らる。さて何濤は捕盜巡檢と共に軍勢を率して石碣村の近辺小港抵。湖

中に左下の船を悉く棄ひぬ。水賊小慣ら兵若干を遣出し。水賊  
よりをせ。刻水陸並に起て發向し。遂に阮小二が船の前に至て。大不威の  
勢を揚。法軍先と争て。教内に亂れ入。此彼搜せども。子人執りて。夜  
屋へ何清を連れてきて。大小果れ。隣家の漁夫と捉て。阮小二が事を問はれ。阮  
漁夫の云る。阮小二が往向は知れども。彼が一人の牙。阮小八阮小七が教  
各湖泊の内に入り。舟小わづべんが往て往り。何清を連れて。巡檢と商  
儀して云。此湖の内は港灣多くして。路逕少く。舟押且水の深さも  
未だ是と云。阮小二が軍勢教く。成ては。一づゝ。又。阮小二の牙は  
中。且。阮小二を殺て。盡く。這村小。阮小二乃ち。教内の人を。見めて。是を  
ち。と。我。阮小二。一。舟に。成て。舟小。棄。置。く。尾。と。連。ね。て。馳。行。せ。巡  
檢。等。と。同。じ。阮小二。に。阮小二。と。合。せ。盡。く。皆。舟。小。棄。置。す。阮小二。湖。中。に。て。棄。置。せ。し。る

舟凡千余艘。法の友軍を。一。舟に。船。載。漕。ぎ。て。阮小二。に。阮小二。の。舟。と。  
聖。で。馳。來。る。阮小二。の。舟。に。よ。し。の。うち。に。胡。と。言。わ。り。友。軍。を。と。り。例。り。て

これと云く小を飲ひいそぐ  
打魚一世蓼兒注  
酷吏賊官都殺盡

不種青苗不種麻  
忠臣報答趙官家

何清を。ひに。法軍。これ。と。して。大。に。驚。か。す。何。志。を。と。り。必。ず。對。面。と。違。い  
看。ま。し。一。人。の。漢。子。一。艘。の。小。舟。に。棹。う。と。と。と。唱。ふ。て。す。友。軍。の  
内。に。と。織。造。ら。る。者。を。乃。指。さ。し。て。云。る。阮小二。の。志。使。は。れ。阮小二。の。何。清  
これ。と。云。ふ。意。に。て。と。あ。げ。て。列。法。の。舟。と。捉。さ。り。れ。法。人。力。と。併。て。む。む。と。し  
各。器。械。と。挺。て。我。先。と。お。ひ。し。阮小二。を。見。て。大。に。笑。ひ。罵。り。云。汝  
友。軍。ら。百。姓。と。い。す。大。賊。何。ぞ。か。く。の。と。く。石。れ。と。願。ず。敢。て。村。に。來。て

白勝夫  
 婦拷問  
 以堪難  
 只一人  
 絨魁鬼  
 蓋と海



新編水滸傳卷之七

濟州府尹  
 美入ラッ  
 アニラ前  
 う者マタ  
 ラエラ合



新編水滸傳卷之七

の類と將や。何濤が背後に射人の連をみるが。び忍口と噴て大ふへうり。  
 さふに弓矢と射てお搦へ。海月のごとく。拽敷てつるおとなく。兵ど放つ。阮小七  
 弦をひいて。忽ちく。や倒ふ。おちうに跳へり。友軍。んと捕んとあつ  
 して。北へ。さふと。十にわし。阮小七。又ハ。遂に。水底に。陣入し。つ。げも。取  
 して。へうり。何濤。舟び。せん。小下。知し。終。小。守。里。て。う。漕。ゆ。あ。に。し。う  
 の。内。小。又。唳。哨。の。こ。こ。へ。い。つ。阮。の。ま。い。り。に。撐。竿。て。赤。面。と。る。ふ。友。人  
 の。漢。子。一。ま。の。魚。船。に。を。り。て。馳。ま。り。一。人。の。漢。子。ふ。の。阮。小。七。に。さ。る。が。阮  
 小。七。若。笠。と。戴。ま。り。ま。る。縁。義。衣。と。着。し。て。ま。る。ま。え。の。槍。と。搦。り。は。ま  
 ち。撞。り。奇。と。ま。り。ま。る。ま。い。し。く

老爺生長石碣村  
 先斬何濤巡檢首

稟性生來要殺人  
 京師獻與趙王君

何濤巡檢首。びに。阮軍。以。敵。と。噴。て。大。に。搦。と。消。し。彼。ハ。又。何。者。を。も。と  
 阮人。強。勁。を。船。に。ま。り。の。友。軍。が。ま。る。彼。槍。と。搦。り。敵。と。唱。ふ。ま。る。若。ハ。乃  
 是。阮。小。七。ハ。何。濤。を。と。噴。て。即。友。軍。に。對。し。て。叫。り。ま。る。汝。が。力。を。併。て  
 先。彼。賊。と。捉。ふ。必。走。り。し。む。と。ま。る。阮。小。七。遙。に。け。え。と。噴。て。何。々。と。赤。笑  
 て。ま。る。汝。が。力。を。併。て。小。頃。後。梅。を。と。わ。ん。と。も。垂。び。船。と。叩。し。て。灣。港。の。内  
 に。揺。入。し。ぬ。阮。の。友。軍。大。に。喊。ま。り。て。追。來。る。阮。小。七。飛。が。ま。る。搦。り。已  
 に。灣。港。の。内。に。半。里。許。馳。入。り。ぬ。友。軍。亦。も。お。續。て。追。及。り。ぬ。阮。小。七。は。灣。港  
 へ。窄。き。處。船。を。ひ。り。と。懸。け。放。て。岸。の。辺。に。漕。ぎ。何。濤。刺。先。に。よ。て  
 け。而。と。ま。り。に。花。の。蕩。と。して。に。方。於。て。蘆。葦。生。着。り。只。一。筋。の。早。船。を。あ。り  
 たり。何。濤。心。中。に。疑。ひ。乃。ち。彼。隣。家。の。漁。夫。ふ。に。而。と。官。り。れ。が。漁。夫。着。て  
 舟。の。高。而。に。居。住。す。と。又。も。葉。葭。の。内。小。い。舟。を。あ。り。なる。而。も。中。へ。ん。着。て。見

何清乃と何清これと咬て。孫疑ひ惑ひ二艘の小船。各々三人と  
 きて。着にたて求てあましと。芦の内にをまむ。二艘の小船已に芦の  
 内小漕入。凡二時をりて経ぬれ。更に消息あり。何清大に待らむ。又二  
 艘の船に。各々二人と乗せ漕入し。むは船をぞに漕入。又一時あり。色  
 りれども。同じ着候あり。何清が云。彼葭の内ふ入し。老たへ久し。我も下  
 に在て。お別し。客なるが。今日何由。新事と乗せざるや。もしや。解さ。比  
 多ふも。既世伸し。又良久し。候れ。一艘の船ども。解る。と。さ。び  
 時。天庭。術。黄。密。に。事。り。な。れ。何。清。大。に。憂。愁。し。て。云。若。し。所。お。立。て。着。の  
 上。に。事。も。む。お。忍。り。と。候。ら。ば。詐。の。計。に。中。ふ。我。自。路。と。覓。て。來  
 べし。と。一。艘。の。使。船。小。乗。六。七。人。小。挿。と。挿。せ。花。が。と。葦。の。内。ふ。を  
 入。凡。又。六。里。斗。住。る。船。に。傍。の。岸。上。に。一。人。の。男。子。鋤。頭。と。提。地。來。る。何

清乃。是。小。官。と。云。汝。何。者。ぞ。や。又。け。而。の。り。多。う。取。ぞ。や。彼。漢。子。答。て。云。我。の  
 け。村。小。住。居。す。る。百。姓。と。い。は。け。而。の。別。改。改。漢。と。り。て。け。り。さ。而。之。何。清。が。云  
 汝。二。艘。の。小。船。の。け。而。に。事。と。見。ざる。や。彼。漢。子。答。て。云。二。艘。の。船。と。い  
 かの。既。小。女。と。提。へ。んと。す。る。船。さ。り。何。清。が。云。汝。何。と。从。て。これ。を。知。り。や。彼  
 漢。子。が。云。然。て。は。艘。の。船。今。も。鳥。林。の。内。に。在。て。既。小。女。と。お。圖。け。由。あ。ふ  
 来。是。と。知。り。何。清。が。云。鳥。林。と。い。は。け。而。より。幾。が。くの。物。あり。や。彼。漢。子。が。云  
 鳥。林。乃。は。茶。面。ふ。わ。路。究。道。一。何。清。是。と。咬。て。圖。と。知。る。べし。と。先  
 女。人。の。兵。と。着。ふ。上。せ。る。船。に。彼。漢。子。急。に。鋤。頭。と。卷。て。二。人。の。云。を。水。中  
 に。赤。落。し。ぬ。何。清。是。と。見。て。大。に。驚。き。慌。て。只。呆。れ。と。り。り。之。船。の。内。に  
 水。底。より。二。人。の。漢。子。現。れ。何。清。が。あ。是。と。見。て。只。一。扯。に。水。中。に。扯。入  
 たり。舟。の。上。に。の。幾。が。くの。云。是。と。見。て。大。に。作。込。急。小。漕。田。え。んと。さ。り。而。に

# 英 勇 豪 傑 智

新編大正書傳卷之二十一

彼鋤頭と拿らる漢子。忙しく追來て、舟の内小跳索即鋤頭と卷きて  
 船中の玄一、水中にお籠り。何清、水中に扯落されて、水底に沈  
 るが、彼漢子、於て何清と倒に拖りて岸より獲お獲り、索を解  
 て、遂に何清と仰り。彼水中より現れる漢子、乃は阮小七なり。彼  
 鋤頭と持る漢子、阮小二、此は友人の兄弟、何清と罵て云。我三人  
 の兄弟、元來人と殺し、火と放と、好む汝等が、此を縱ひ何百人來  
 とも、何の怖もとわらん。故に汝友軍を引來て、我輩と犯さんとする。汝が  
 命と休る所之。何清が云。素の上命と殺して、此をわらう。いんぞ、私小來て豪  
 傑と犯さん、殺らん兄弟の豪傑、憐れと畜ふ。我輩も、八十歳の老  
 母あり。我いんを、なむかぶ。老母、害する者なく。汝小街に徘徊して、乞  
 食とするべし。そとくハハ、叫ぶれと、素と、命と、仰けり。兄弟が云。且汝と

船の如く、捆て、船艘の内に入牢さるべし。とて、再び舟に乗り、何清と  
 船の内小入、兄弟各一艘の船小、駕し、漕出たり。柵被捕、盜巡檢ハ、後  
 官軍ホと共に、船と岸の辺に泊りて、何清が、面すと、待たれた。良久、く消息  
 ありし、巡檢、別友軍ホ小對して、云る。何清、向に、玄等が事と、辨せ、  
 して、自ら、後と、見小、往り、が、時刻、已に、移れた。未ど、舟、より、いんぞ、や、以、時、初  
 文の、左側、も、星、光、天、小、満、て、一、朶、の、雲、も、き、晴、し、公、信、の、友、軍、皆、船、の、後、  
 に、船、と、引、ね、て、細、浪、乘、り、船、に、忽、ち、一、陣、の、狂、風、起、て、波、と、飛、し、石、と、互、の  
 水、と、捲、浪、と、起、り、波、の、友、軍、も、大、小、驚、き、這、へ、い、ふ、と、強、勁、以、以、時、法、船  
 の、櫓、索、一、度、に、牽、刺、々、と、引、ら、れ、ば、友、軍、ホ、益、作、天、と、恙、に、船、が、往、ん、と、立、發  
 く、不、に、後、の、方、に、唸、哨、の、聲、頻、に、響、く、友、軍、これ、と、怖、く、船、皆、と、擡、て  
 岸、の、内、を、飛、り、過、る、に、是、例、より、一、乃、の、火、の、光、垂、に、閃、々、出、法、人、大、に、驚、と、消

新編大正書傳卷之二十一

こへいとうる 惟矣と我軍の一命に於て休むべしと未だ云もるる  
 ざるに彼友軍亦が乗る大小の舟凡は十艘懐風に吹れ彼小舟  
 此に揃り已に二三艘の小船眼示不沈もり那火の光漸くをを来り  
 ぶ徳人これとるに系来数艘の小船各船の上小旗を装飾し  
 一度に火を放ち並に友軍亦が船を乗て焼来る友軍亦これと避人と欲  
 しく去るに船と潜窟んとせし各は不潜港の内にて狭く又避るべし  
 亦もるりる一向に舟して居りりる如にかの火船已に弛きて友軍  
 数十艘の船と数くに焼掃ふ系来水の中おも我々の人のため  
 かと助け焼れば友軍亦大ひ小噪ぎ多く岩に跳上る命を保ち  
 身と脱れて奔走し独れは四方皆蒹葭を茂て一筋の早瀬も有り  
 久流皆大ひに迷ひり。以時岩の上なる蘆葦を刮々雑々と焚上る官

軍亦水陸動て走る所あり悉く煤泥の内小丸れ入各忙然とて立並  
 ぬ又火の光の内一艘の枝船飛ぶごとく小弛来る船の尾は一人の漢子  
 櫓と揺し船の改一人の先生登の上小舟一人は明晃々と一挺の  
 宝剣と提大小呼て云るに友軍亦一人も走るとをえ友軍亦これと受て  
 いふく魂と落しをり之葦の束をうり又友人の漢子に友人の漁丈と引  
 て各も明晃々と鎗刀と提弛来る葦の束をうりも同く友人の漢子  
 に友人の漁丈と率し各も小舟に鎗刀と揮て弛るに事已に急撤  
 と受て揃り暫時小友軍煤泥の内小樹伏る束の友人は乃是  
 見蓋と脱小舟の友人は脱小二脱小七有り枝船の上の先生は使ら  
 今怪風と折りたる公孫播有り社友人の豪傑十餘人の漁丈と引  
 各勇と奮ひ力と保て働さし法の友軍亦一く皆以時折る一兵



一人何濤と仰りて。船の肉不入を名づ。又此時引出。阮小二大罵  
 て汝は毛濟州小放て民を害する毒虫なれば。我も汝を殺さばは  
 我及て汝を助けて濟州に田さん。汝くはく府尹木に對して。我を極  
 勇と評す。東溪村の天王晁蓋は汝がこれ。賊友が業に困らう。若くは  
 我等又若く汝を濟州にいと出さば。御犯し方とる。汝も又きて我村を  
 犯し。自ら死せんとせん。汝が府尹木の小州の氣守なれば。系來云に足に緋  
 ひ蔡太師自親數十方の軍を引て來るとも。我又蔡を師と三十餘擧て。  
 身と粉ふ。骨と碎く。汝濟州にゆ。我が虎威龍勢と。賊友木に  
 若知くせ。再び來り。ひてとせん。あも我村。擧もさへ。ひに。阮小  
 七。命。送。せ。られ。阮小二。一。艘。の。枝。船。小。何。濤。と。載。く。並。に。海。に。送。出。

を。も。ち。又。何。濤。と。罵。て。云。ら。る。ば。一。直。に。行。ば。即。一。つ。の。乃。あり。汝。の。友。軍。を  
 悉く皆斬死されし。いんぞ汝一人の。て。悉く。回。さん。や。我。今。汝。が。耳。と  
 切割。後。日。の。表。征。と。又。濟。州。の。賊。官。小。侯。一。人。を。擧。て。刀。を。抜。て。二。つ  
 の。耳。を。割。り。れ。血。大。小。滾。流。れ。汝。身。を。て。紅。く。染。り。阮。小。七。を。見。て。呵。々  
 と。歩。笑。ひ。乃。何。濤。が。條。と。緊。と。擧。て。遠。の。岸。小。甲。上。し。何。濤。の。友。軍。蔡。小  
 有りし中に。一人命を助ると。悦び。て。耳。の。痛。も。亦。忘。る。自。一。筋。の。乃。を。見。れ。  
 並。に。濟。州。を。平。て。回。り。り。叔。晁。蓋。公。孫。務。三。阮。兄。弟。八。十。餘。人。の。漁。夫。と  
 引。て。六。艘。の。小。船。小。系。並。ち。小。李。叔。乃。に。漕。來。て。兵。用。劉。唐。が。船。小。尋。遇  
 ひ。乃。船。と。攪。て。一。丸。に。合。は。し。兵。用。晁。蓋。小。對。して。鬪。の。と。同。ら。れ。晁。蓋  
 若。て。次。弟。一。く。お。若。り。れ。兵。用。亦。是。と。皆。て。大。小。悦。び。乃。船。と。操。へ。て。梁山泊  
 に。漕。つ。け。徒。人。濠。小。上。て。並。ち。に。早。地。忽。律。朱。貴。が。酒。香。亦。有。朱。貴。の。許。

晁蓋

多の人來て山陣小入と云て出て忙し出てお逢ふ。兵用別朱斐小對しあ  
しく來應と強りられぬ。朱斐大小ねび。逐一放てお見へ乃ち延て腰上より  
各坐已お空りられぬ。朱斐お速酒宴と役けて強人と款待し酒敷盃巡り  
られぬ。朱斐別一張の弓に一枝の箭を搦て對向の芦の中と尋んで射入  
るに。箭箭の射る所を一艘の小船に五六人の小賊等お逢て。朱斐が願  
の下に揺るがひ箭箭を以てお逢と定む。朱斐より山陣小用お時乃ひ箭  
箭と放つけ箭箭と時ひ小賊忽ち船と漕て弛るると定例之扱朱斐の  
一盃の書箭と修へて晁蓋ホ七人が山陣小加くと欲する來應と速遂小  
小賊小入へ山陣小進申。朱斐又半と宰羊と殺して夢に酒宴と新  
めて夢に夢まで飲めとる。その一は危皆朱斐が願小歌り。翌日子天小  
朱斐一艘の大船と修へ乃ち晁蓋と修てお小業せ已に一時も漕

ふ。もや一ツの水にお逢りぬ。ゆるぬに家の辺小令鼓のおと大小音く。晁蓋  
これと見るに七八人の小賊は艘の哨船小齊く。揮と用ひ揺る。  
乃ち朱斐小見えて慇懃小礼とる。再び飛がとく小弛る。此に  
艘の舟は先山陣に泊をせんが為。已にひ下して動程と伺ひ朱斐ハ  
晁蓋と引て金沙灘小入り。竟小ひ下り岸小上りられぬ。又十人の  
小賊山と下つてお逢へ。連ち小山陣に辱て。関前小入ひ時小王倫等  
人の取候ハ自り突と出て晁蓋ホ七人と迎へられ。晁蓋ら忙ハ礼と  
り小王倫も又急に礼と返して云る。素方て晁天王の大名と定て。恰  
も雷のみに夷がと。今日何の音ひ小う山陣小來條と急と多小也。晁蓋  
らぐ云素ハ是書史と讀ぶる。急軍之今日事已小危急小條。由下  
と願に敢て來て山陣と活に候くハ取候の帳下小留て一小卒とほは



晁蓋三阮が  
 葦討手の官  
 軍と鏖小は



のりく既の憐れははた。未拵しとて。えんをの勞と献しん王倫が云  
 且山陣小入て。疲とも慰め。何ども緩くと。商儀のこんとして。乃晁蓋  
 らと引て山小より。遂に陣中の聚義廳に。入りしう。王倫再三懐て。晁  
 蓋と廳に。よりし。晁蓋深く。是と稱し。これを。強にトす。こ能く。びして  
 晁蓋ら七人。先階に。上つて。右のこに。一連に。まきふ。王倫ら。又人ひ。ひう。う。こ  
 一行に。立列る。各礼。已に。と。り。られ。賓。をお。わ。つて。さ。と。さ。り。大。ひ。に。酒。入。と  
 没て。飲。砂。ふ。及。ひ。酒。を。ぞ。に。數。盃。巡。り。られ。晁蓋。別。笑。儀。の。金。銀。を  
 棄。れ。友。軍。と。慶。ふ。せ。し。次。第。一。く。伎。細。に。没。て。孫。山。陣。小。行。と。ぬ。ん。と。せ  
 ね。ふ。王。倫。是。と。笑。て。忽。該。拵。と。と。心中。に。躊。躇。し。半。時。許。は。こ。も。出。ま  
 工。能。は。良。久。し。して。僅。に。一。ま。く。お。さ。ふ。こ。を。盃。お。取。て。再。三。晁。蓋。に。す。く。先  
 飲。砂。已。に。飲。ふ。お。て。と。り。し。久。王。倫。ら。ハ。晁。蓋。兵。用。ら。七。人。の。衆。と。笑。下

小送て。客館に。歇。ま。し。晁蓋。心中。に。拵。び。乃。兵。用。六。人。小。對。し。て。い  
 ろ。の。我。衆。已。に。大。罪。と。犯。し。何。れ。小。身。と。安。ん。ず。べ。き。不。さ。し。若。王。既。飲  
 か。く。の。い。と。さ。の。愁。と。垂。る。に。わ。づ。ご。ん。ば。我。衆。竟。に。命。を。さ。る。不。と。失。ふ。べ。し。  
 孫。小。王。既。飲。の。大。恩。忘。ぶ。べ。惟。兵。用。の。け。言。と。笑。て。彭。公。冷。笑。晁蓋  
 と。れ。と。見。て。乃。同。て。云。兵。先。生。ハ。何。ゆ。多。只。顧。冷。笑。ひ。身。や。り。事。あ。ら。う。ば。速  
 小。知。せ。更。兵。用。が。い。り。え。來。保。正。の。性。直。し。て。事。と。一。味。小。後。し。る。彼  
 王。倫。何。ぞ。我。衆。と。ぬ。り。さん。保。正。の。兵。彼。が。詞。と。笑。て。彼。が。心。を。見。る。が。晁  
 蓋。が。云。彼。が。心。と。着。が。ら。い。い。ん。兵。用。が。云。保。正。未。ど。悔。り。ま。い。だ。や。今。胡。攀。て  
 お。ま。さ。へ。し。對。ハ。王。倫。頗。る。後。實。の。情。と。交。へ。る。が。今。後。保。正。又。彼。友。軍。お。こ  
 殺。し。る。と。没。て。三。阮。兄。才。が。強。勇。と。吹。嘘。し。る。余。意。王。倫。是。と。笑。て。顔。及  
 忽。變。ト。り。尤。に。中。ら。同。つ。善。つ。始。に。兵。を。さ。れ。在。心中。小。は。及。て。忍。れ。懼。る

意のつて只願請諾して我等と山陰に居るまのらば。いふぞ今日早商儀  
 と定め列座の次第も究べさし。物も未だ沙汰も及むるは心  
 必変定せざるなり。彼杜廷宋方友人の志の系東郷は名の実るれが者て  
 客を款待ととるは。独林冲の本系の禁軍教頭も。まじまあるれば。さ  
 して独流事と曉せり。今止とて止すして。筭に位に坐し。今日林冲王  
 偏が挨拶と見て。自ら下歩の心とせせり。歩に眼と怒して。王偏と睨ぬ。  
 系林冲ととるに及て。我が軍と憐の心深し。重て対面し。系只一と  
 び。林冲に系と流して。強に林冲として。王偏と殺さしめん。晁蓋が云何  
 事も。只呉先生の計と頼る。官くひて身と安んじ。命とまじらぬ。又  
 として。系只列位歇り。翌日天子家の人来て。晁蓋を報じて。云林教頭  
 今城外に居て。保正と仰いぬ。あくもと迎へらんや。呉用これと告て。保

正小とて。云林冲今こゝに。いふも。系をひるれ。我軍の計と行ふ。い  
 七人壯へく出て。お迎へ。乃ち林冲と延て。客館に。いふれば。呉用せん  
 林冲不謝して。云系未のれもなき。樞機もなき。その下に山小より。云々  
 厚巻と。海を。激小推障の。いふ。林冲。云系大に。中客と敬う。ん。此  
 とい。系系より。ま位小め。さる。あ。う。う。そん。公と。失へり。然く。ハ。明く。ふ。これと  
 さつて。不敬の。つ。と。あ。り。又。呉用が。云。系。あ。り。不。又。う。り。と。い。へ。も。又。系。本。あ。る  
 め。は。晁。林。既。然。の。れ。ん。え。と。さ。れ。る。ふ。と。見。さ。ん。や。べ。つ。と。林。既。然。の。洪。恩  
 と。う。ん。ま。る。と。浅。う。う。は。け。時。再。三。懐。て。林。冲。と。上。府。ふ。こ。ひ。な。れ。た。林。冲。は。つ。て  
 上。府。ふ。つ。ら。つ。つ。に。晁。蓋。と。お。ひ。上。府。に。つ。ら。り。め。林。冲。は。さ。ら。な。た。を。定。め  
 ら。ん。ば。呉。用。ホ。六。人。ハ。一。乃。不。死。と。つ。ぬ。晁。蓋。云。系。久。し。く。林。教。頭。の。大。名。を  
 及。び。ぬ。者。は。今。日。さ。ら。と。と。る。と。喜。び。屋。外。小。出。ぬ。林。冲。云。系。系。京

に在しとて朋友と礼せつと交へて得つとありき。今日ハ今位に居せざる  
 由く是れとていはれども多く礼と失り是に由りて今期客儀に  
 御一点の實と今以辱くハ保正系とては自ら晁蓋とてし  
 て云系深く教政の厚意とては異用又林冲に同て云政は昔日系に  
 居ぬふと云々其の名よ遠近ハ振て人皆を敬すこととては如何なる  
 儀とあり不意のつと不陷れぬや。其後又滄州まで大軍を討つと  
 燒らるに言儀が所とて是れ人の樞機とては山ハ  
 ようありや林冲をて云の言儀が系とては不とおとて一せつとては  
 んの千恨万怨多知に生れ死れ未け仇と報むと能は強て氣とて  
 のとて系は山に登りて身を空し根を切て葉大友人の薦め之異用  
 云柴大官人と官ハ世間の人をて小旋風葉をと稱する人ハ林

冲が云初そ人の晁蓋が云系久しく法人の傳へては葉大友人ハ  
 とてとて。材と輕んど。是れは方の豪傑と交りて結びぬとて況や大周  
 皇帝の嫡孫とて。是れは系とて。是れは何とて一遭見えなむとて。一  
 異用又林冲ハ向て云。教政ハ或人ハ不務れぬ。葉大友人も。  
 葉大友人ハ山ハ薦を公とて。是れは葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。  
 實ハ公の及て。是れは葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。  
 既ハ葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。  
 乃理り。林冲が云系何とて。是れは葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。  
 犯し。己小身とて。是れは葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。  
 乃れども。是れは葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。  
 け山ハ。是れは葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。葉大友人ハ。

座の言下と争ふも及べざらん。彼を只恨し、彼を痛心刺す。其  
 を殺さずんば、動不動候と失ひ、約と背く。其の大丈夫と云ふに、是に具  
 用云々。既候に、系来人と述べ、相と交へて、一圍の和柔むるとこそ、咬及びみ  
 何ぞかく、心窄まや、林冲が云、今日山陣に、天意いと揚て、依の豪傑あり  
 何ふ別は、錦不花と、源早ふぬと、改るがに、依に、王備候と、如と、結と、忍む  
 云と、懐り、保正、昨夜大勢の友軍と殺し、おひしと、殺されし、被  
 とも、心中小き勇と、如と、豪傑と、留めまじ、此、挫、振、差、現、ま、只、願、請、請、一  
 て、決、然、遂、心、法、の、豪、傑、と、笑、外、不、息、ま、り、め、山、陣、に、留、め、さ、る、は、兵、司、が、云  
 王、既、候、か、る、ふ、わ、い、が、我、等、一、刻、も、あ、く、他、死、に、死、身、と、殺、す、は、林、冲、が、云、法  
 の、豪、傑、何、ぞ、必、ず、這、極、の、心、と、し、ま、り、め、あ、ふ、と、さ、う、れ、ま、素、自、ら、は、豪、傑、と、各、山、陣  
 不、留、め、り、ま、す。素、只、豪、傑、の、山、と、稱、し、回、り、ぬ、り、ん、と、と、お、り、あ、る、か、く、も、胡、有、て、

心、底、透、り、り、今、日、り、王、倫、一、言、ま、じ、く、も、粗、語、さ、る、と、わ、い、は、素、忽、ち、り、ぬ  
 べ、こ、と、わ、り、晁、蓋、が、云、林、教、頭、の、ご、う、覺、憐、と、密、さ、り、上、は、法、軍、兵、願、林  
 教、頭、と、殺、し、り、ん、兵、用、又、故、云、林、冲、に、對、し、て、さ、る、は、林、既、候、り、ま、素、が  
 為、に、王、既、候、と、歎、と、憂、し、回、情、と、傷、ひ、ぬ、り、わ、い、と、わ、い、は、素、ら、豈、ら、く、こ、ん、は、あ  
 り、ん、や、素、只、の、只、留、り、ま、す、と、さ、る、は、別、留、り、ま、す、と、さ、る、は、別、ら、ま、ん、何、ぞ、殺、て、再  
 三、教、頭、と、争、し、り、や、林、冲、が、云、先、生、の、言、差、へ、り、法、も、豪、傑、の、豪、傑  
 と、覺、し、得、し、得、く、と、覺、す、と、こ、そ、や、王、倫、が、云、小、人、早、竟、何、の、用、あり  
 中、ら、ん、法、軍、は、素、が、方、寸、の、間、に、あり、法、の、豪、傑、先、公、と、覺、げ、之、必、中  
 退、悔、の、急、と、起、し、ぬ、り、ぬ、り、と、遂、に、晁、蓋、等、七、人、小、別、れ、に、被、外、に  
 半、一、七、人、の、豪、傑、も、い、い、い、い、被、外、ま、で、送、り、り、り、林、冲、が、腹、を、さ、る、不、早  
 素、い、ん、次、の、素、小、洋、あり

新編水滸画傳卷之拾七 畢  
 卷小出する詩句小趙官家と云又趙王君とわりの宋の世して天子姓趙之  
 言休ハさし梁中書蔡方師のいれも縮絡小耽り下と若め政治不正の穢官  
 たりそ下ふ立何清と巡檢との首と折て去のた後我門並に宋の天子に獻  
 せんとの言又水滸傳舶来のなす何親察とあり親察ハ官名めて緝捕使何  
 清ハ友軍と向さる捕盜の親察使と放小何清と何親察と云り

新編水滸画傳卷之拾七 畢

九紋龍史進

備後所三休橋和西五入

和漢 新古賣買所 大場 孫兵衛  
 西洋



